文 化 財 調 査 カ ー ド(指定理由書)

名　　称	山浦真雄作　脇差　銘「造信陽士真雄時年六十三　慶應二年八月日」	
種　　別	有形文化財　金工品	
所　在　地	東御市常田505-1	0268－62－3700
所有者又は管理者	東御市	
所 有 者 等 住 所	東御市県281－2	0268－62－1111
構　造　・　規　模	長さ　47.2cm 反り　0.4cm	
現　状　・　沿　革	平成4年に8,000千円で市が購入し、丸山晩霞記念館収蔵庫で保管、管理。 重要刀剣と認定されている。(真雄作品としては認定第1号) ※重要刀剣とは、日本美術刀剣保存協会による鑑定区分で、平安時代から江戸時代にかけて作刀された保存状態が良好で各時代の有名刀工の優品が認定される。	
内　　容	山浦真雄は、文化元年(1804)赤岩村に生まれる。世襲の赤岩村名主職を務めるかたわら、納得できる自分の佩刀を作ろうと古伝の鍛刀法を研究した。江戸の名工水心子正秀との関わりがあったほか、上田藩工河村寿隆のもとで2年間作刀を学んでいる。小諸や上田で藩主用の刀を鍛造するなど名声を得た後、嘉永6年(1853)には松代藩真田家の試刀会でその刀は、すさまじい切れ味と強靭さを示して高い評価を得、同藩のお抱え刀工となる。新々刀期の名工の一人に数えられている。明治7年(1874)没71歳。 本作は、菖蒲様鵜首造、庵棟、地肌は縦横に動きがあり、刃中の沸、金筋が優美である。また、茎の銘は、毛筆で書いたような運筆を表している。	
仕　様　用　具	無	
指　定　理　由	本脇差は、菖蒲様鵜首造で、刃中の沸、金筋が優美であるなど、山浦物の特徴をす全て兼ね備えている真雄の代表作の一つ。真雄円熟期の優品として真雄、清麿、兼虎の出身地である東御市にとって重要な作品と言える。	
時 代 又 は 年 代	慶應2年1866年(当時63歳)	
指 定 の 有 無	無	
保 存 の 要 件	無	
文　献　・　資　料	山浦真雄筆「老の寝ざめ」新編信濃資料叢書第十巻(昭和49年刊)所収 花岡忠男『刀工　山浦真雄　清麿　兼虎伝』(昭和60年6月5日)	
調　査　年　月　日	令和6年9月2日 調査者　宮入法廣(長野県無形文化財保持者) 　　文化振興係　小暮　目黒	